

平成 26 年度 第 1 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成 26 年 4 月 21 日（月） 13：30～16：00

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者： 犬塚委員 土屋委員 竹田委員

（事務局）井端事務局長 森下

IV. 資料

資料① 平成 26 年度 CCC 社会学グループ運営委員会の活動計画

資料② 対話集会に関する検討事項（メモ）

資料③ 対話集会実施に向けた検討事項について

資料④ 現在の授業で顕著な効果を上げている事例

参考 1 用語集

参考 2 アクティブラーニング事例集 長崎大学 大学教育機能開発センター

参考 2.1 数理と自然科学のススメ 長崎大学

参考 3 長崎大学 大学教育機能開発センター紀要 第 3 号

国内大学におけるアクティブラーニングの組織的実践事例

参考 4 「双方向型授業」（読売新聞 2013 年 2 月 7 日）

参考 5 「学び改革急ピッチ」（日本経済新聞 2014 年 4 月 7 日）

参考 6 「大学 1 年生難題で覚醒」（日本経済新聞 2013 年 2 月 6 日付）

参考 7 CSCL; ネットワークを用いたグループ学習支援システム 大阪大学産業科学研究所 稲葉晶子

参考 8 発見的学習活動における創発的分業を支援する CSCL システムの開発

メディア教育研究 大 4 巻第 2 号（2008）

公益社団法人私立大学情報教育協会 平成 26 年事業計画書

平成 26 年度 CCC 社会学グループ運営委員会名簿

V. 議事内容

1. 配布資料の確認を行った。

2. 前回議事録の確認

3. 学生の多様化にともない、私情協はこれまで下記のような研究の流れで提案をしていった。

個々の教員の事例→インターネット上で公開→それに対する意見の収集→私情協で協議

→授業モデルの提案

4. 今の学生の気質を踏まえた授業改善が必要

今の学生は皆の前で失敗することを恐れる・仲間で行動する

→討論・議論させることが必要（知識の定着だけでは不十分）

→大学の授業で失敗体験をさせて、社会人力をつけるためにトレーニングすることが必要

→参考 5 から学生に求めるのは主体性・グローバルな視点（異文化共生の視点）

市民として行動できる人間を育てる

以上からグループワーク・フィールドワークを取り入れた教育が必要

参考 3 の長崎大学の成功例・失敗例を検討した。

4-1一つのテーマで競争すると失敗することもある。

4-2グループ内の個人差をどう解決するか ⇒レベルをそろえる

4-3グループの人数をどうするか

5. 今後の研究の進め方について

①仮称・対話集会の名前を再考 情報交換会・授業研究会など候補

②大学教員には、研究型、授業中心型など多様なタイプが存在する。

③学問分野でもアクティブラーニングになじみのある分野とそうでない分野がある。

→いずれにしても社会に対して学問分野を説明していく説明責任がある。

→専門と教養のドッキング型の教育をしないといけない時代

→若い世代でもそうでない世代でも学生の出口イメージの希薄な人はいる。

④社会学の領域ではどのようにとらえられているか。

→知識を4年間注入してもどのようにアウトプットしていくのかその方向が見えていないケースもある。

→専門領域を学んでいなくても、知識を取り込む能力の開発は可能である。その取り込む能力の評価はどのようにするのか・

⑤その意味で、対話「集会」といった意見交換のかたちも模索できるのではないか。

→講義型、演習型、実験型とわけないでいいのではないか。

→1つの科目の単位数を増やし、授業外学習時間を増やすことも必要ではないか。

→チームティーチングによって学士力をつける工夫も必要ではないか。

⑥対話集会の前にストーリーが必要。

⑦対話集会の進め方は次回の会合で詳細を決定

場所 (株)内田洋行 第2オフィス 8階 801会議室(ロの字型)

本社オフィス7階 フューチャークラスルーム

(場所は4月22日に予約済み通知があった)

時間 8月21日(木) 13:00~18:00

集会の内容 授業例 犬塚委員

これまでの経緯 土屋委員

意見交換・司会 竹田委員

3. 次回の委員会

日時:平成26年6月2日(月) 13:30~15:30

場所:私立大学情報教育協会 事務局 会議室

次回は、 ・意見交換のための対話集会の取組みの進め方について